

景気動向調査の概要について【2025 年 7～9 月】

令和 7 年 10 月 21 日
富山商工会議所

景気は回復期待が微増、来期業況判断は改善傾向を示す

景気の現況は、「回復している」と「緩やかに回復している」を合計した割合で見ると、前期が 26.9%（3.8%、+23.1%）であったのに対し、今期は 28.6%（0.0%、+28.6%）となり、1.7 ポイント微増。最も多い「足踏み状態」は 53.6%の前期比 0.2 ポイント微減。「緩やかに後退している」は 14.3%と前期比 2.7%増加、「分からない」は 3.5%の前期比 4.2 ポイント減少し、景気回復の期待が高まる一方で、悪化の兆候を捉える見方も増えている結果となった。

今期の業況判断 DI は、7.1 ポイント減少の△7.1（前期 0.0）、来期の見通し DI は 14.2 ポイント増加の 7.1（前期 15.4）となった。業況判断は悪化から改善へと大きく変化する傾向を示した。

製造・非製造業ともに、IT 関連や富裕層向け需要は好調だが、一般層の節約志向や設備投資抑制が課題である。

製造業は、一般機械のベアリングや電気機械の電子部品、情報通信機器分野は、中国産機向け需要増やクラウド・AI の普及等に伴い好調。ジェネリック医薬品販売や、人手不足を背景とした包装機械販売も堅調。一方で、客先の設備投資延期に伴うロボットの不調や、中国経済低迷による産業機器分野の需要弱含みが見られた。また、紙関連業界では、インバウンド効果はあるものの、ペーパーレス化や住宅着工減少の影響を受けている状況。

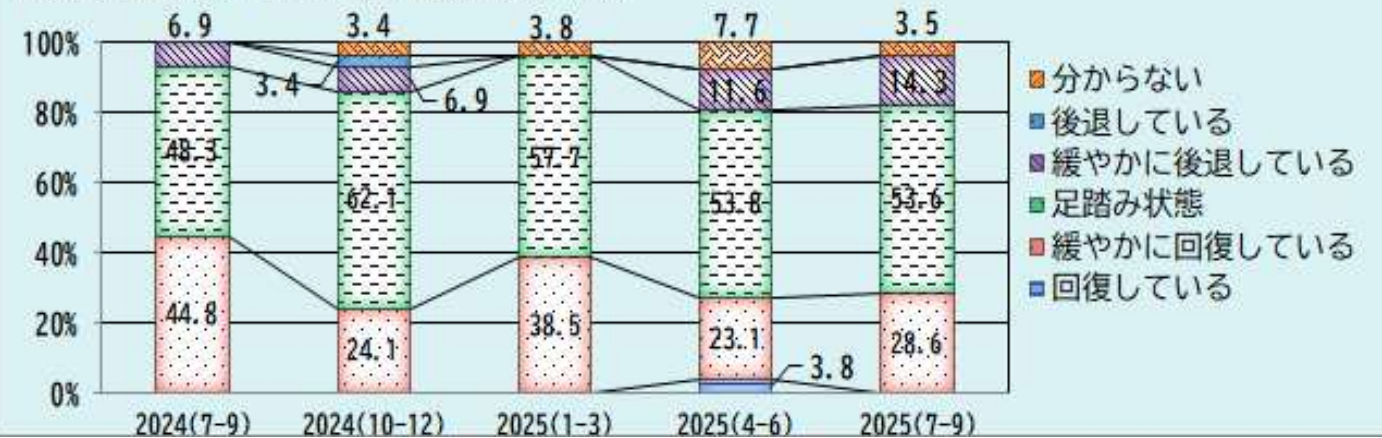
非製造業では、百貨店では富裕層向け美術品や宝飾品の販売が好調となったが、一般層の節約志向による衣料品は不調。観光客増加を背景にショッピングセンターのお土産や食料品は堅調。IT 関連では OS サポート終了や Windows 11 への切り替えに伴い、パソコン販売と関連機器のリースが好調。情報通信の医療・産業分野も顧客の積極的な IT 投資で好調。トランプ関税による機械設備リースの抑制が見られる状況。

賃金引上げの影響については、製造業・非製造業双方でコスト増となり利益を圧迫している。

製造業では、人件費増に加え原材料高騰と重なり利益減少を懸念し、電気機械業界によっては人材戦略の取り組みが聞かれ、作業効率化による省力化・合理化を進めている。最低賃金改定により中小零細企業は経営困難となるリスクがあると指摘するところもあった。

非製造業では、販管費増加や人件費増額が発生し、費用構造改革を推進する動きや、リース業界によっては、労働時間の減少で人員採用の予定や、人材確保の困難さが経営を圧迫してくるとの声が聞かれた。

1. 景気の現状について（四半期ごとの推移）



2. 前期との比較と来期の見通し

		2024 年 7-9 月期	2024 年 10-12 月期	2025 年 1-3 月期	2025 年 4-6 月期	2025 年 7-9 月期	2025 年 10-12 月期
前期比	好転	31	20.7	30.8	15.4	14.3	—
	不変	44.8	55.2	46.1	69.2	64.3	—
	悪化	24.1	24.1	23.1	15.4	21.4	—
	DI	6.9	△3.4	7.7	0.0	△7.1	—
来期の見通し	好転	25.9	20.7	20.7	30.8	23.1	21.4
	不変	59.3	72.4	62.1	57.7	69.2	64.3
	悪化	14.8	6.9	17.2	11.5	7.7	14.3
	DI	11.1	13.8	3.5	19.3	15.4	7.1

<実施要領>

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|-----------------|
| 1. 調査期間 | 2025 年 9 月 25 日～2025 年 10 月 6 日 | 2. 調査対象 | 当所景気モニター企業 29 社 |
| 3. 調査方法 | 調査票を郵送し FAX 又は Google Form で回収 | 4. 有効回答数 | 28 社（回収率 96.5%） |